



昭和29年卒
石田 弘

第三十二号”ともかき”は、いろいろな考えさせられる思い出多き最終版の記念号となろう。

最後の卒業式、閉課程記念式典、モニユメントの除幕式をもって、式典は終了した。

次に会場を東京プリンスホテルに移し、閉課程記念として、同窓会総会、慣例の懇親会は、本年最後の卒業生と共に、多数来賓のご参加をはじめ、多くの諸先生方のご出席を賜り、旧制、新制の卒業生、先輩、同級後輩の皆様と共に、会場狭しと盛会の光景は、沢山の写真が記念の思い出として、いつまでも心に刻まれよう。当三十二号は、『青葉会の歩み』の最後の頁に挿んでおきたい。同時に、幻の八十年記念号でもあろうか。思い起せば、昭和五十四

年十月二十八日(日)に、

三田高校五十周年記念式典があるとの情報が、学校近くに住む友人より入る。近代的校舎の完成祝いも兼ている噂もある。考えるまでもなく三田高卒業以来、二十九年卒であるので、二十五年間も母校を訪問していないことになる。友人男女五名、即、衆議一決、祝賀会出席と決り、学校集合である。最初に見たのは、オセンチ山であった。体育館の会場はすでに懇親会に進行していた。ご来賓の方々も多く、卒業生も多数見受けた。盛大なる式典は目を瞠るものがあった。舞台上に上げられ一言づつ挨拶したのは覚えていたが、内容までは、思い出せない。帰路、一部校舎を見学させて貰う、エレベーターあり、給食設備と食堂の広いこと、明る環境が魅力的であった、五人の友人以外、知る人が無く早めに引上げた。それから次の週に石関先生が、突然、当社に訪ねて来られた。応接室で、暫く世間話よりはじまり、石田の家族の話、卒業以来の仕

事の内容と推移を語った。

石関先生は、現在の学校と生徒の事情、五十周年記念の話題に入る、富川会長は今限りの実情も伺った、引継ぎ予算ゼロであることも最後に知った、それでも、ご協力を約束した。先生は静かに、同窓会の現状と経過を語りはじめ、今後の同窓会継続とますますの発展を望んでいることが強く印象に残った。思えば、伝統を誇る女子校が、男女共学になることは、最初は大変なことと思う。それから既に二十五年が経過している、男子入学第一期生の、二十九年卒に同窓会の牽引を託したい、石関先生のご意志が読めた気がした。早急に一組〜四組の主なメンバーに、先生のご意志を伝え賛同の確約を取り付けて、早急にご報告の約束をした、先生はお帰りにになった。主す四組のメンバー多数集合したのは、三日後の中野宅二階であった。青葉会(同窓会)五十周年を契機に、会員の親睦を目的と定めて、今後の青葉会の発展に寄与するには、どう行動するの

か、各自の意見を聞きたい、その運営資金、維持、管理、通信、会員名簿、役員構成、学校の協力は、意志百出、議論にもなったが、既に、矢は放たれている。伝統というタテ糸はある、横糸を

通すことです、女性の意見で終った。 ”ともかき” 年一回の発行、毎月一回、日時を決めて学校に集ろう。そのためのカンパが、まず必要となる、二十九年卒の皆さんのご協力なくては進めない、全員了承した。旧制、新制の正確な会員名簿が必要である。これは学校に協力してもらってチェックしよう、そして運営と実行に、いろいろと条件をつけたが、すべて了解された。 約束の一週間後に、石関先生に報告することができた。その時、中村十成先生も参加、石関先生とコンビとなる。 ”ともかき” 三号より、二十九年が担当する。主として、五十周年記念号となったが、二十九年卒の同期会を、卒業以来、初めて開

催して、三号発行と共に約束を果たしたのである、同期の皆様にはご無理なことはかりお願いし、心より感謝し、先生方も参加され、楽しい思い出の一夜であった。遂に難関は越えた。

”ともかき” 四号より、青葉会総会、懇親会の開催は十一月二十三日と決定した。 忘れられない人 ◎故長谷川芳貞先生、三田高一年の担任、自宅訪問五回泊酒と語と ◎北原安門先生、三田高三年四年の担任、伯母北原三代子先生と、北原奨学奨励賞、級会皆勤賞 ◎若林明弘先生、小山台高愚息の担任石田と酒の友十年三田高青葉会閉課程迄二十年酒美味 ◎鳴戸錦子先輩税理士 ”ともかき” 三号〜三十二号まで会計責任赤字無 ◎松原(旧姓赤星) 智子先生ホームページ ”ともかき” 感銘本体消耗品有償 ◎石関力太郎先生復刊 ”ともかき” 神様一号〜三十二号有り難し、感謝 ◎五百川武元会長石関先生

の教え子一号〜三十二号全部に関与感謝 ◎若月義男閉課程会長御苦労様三〜十三号石田、十四〜二十四号五百川、二十五〜三十二号若月完了

”世の狂いか？ 吾が頭狂いか？ 世間全部の方々とは決して申し上げませんが、自分の子供が高卒頃になると、自立を考えはじめ。親はふと自分の青春を思う、無性に母校(中高)を思い出す。私の場合、三田高卒より二十五年ぶりに友を誘い、五十周年記念の集いに参加した。” 旧制の方々も多勢参加していた。創立八十年の歴史ある現在も、五千名の卒業生がご存命である。青春の思いを母校で語り合おう、小さな教室が欲しい。メモリアルホールとはいわないまでもメール仲間の顔合せ所としたい。 校長、副校長の問題ではなさそう。行政の問題と、是非とも、都にお願

* * * * *

い申し上げます。